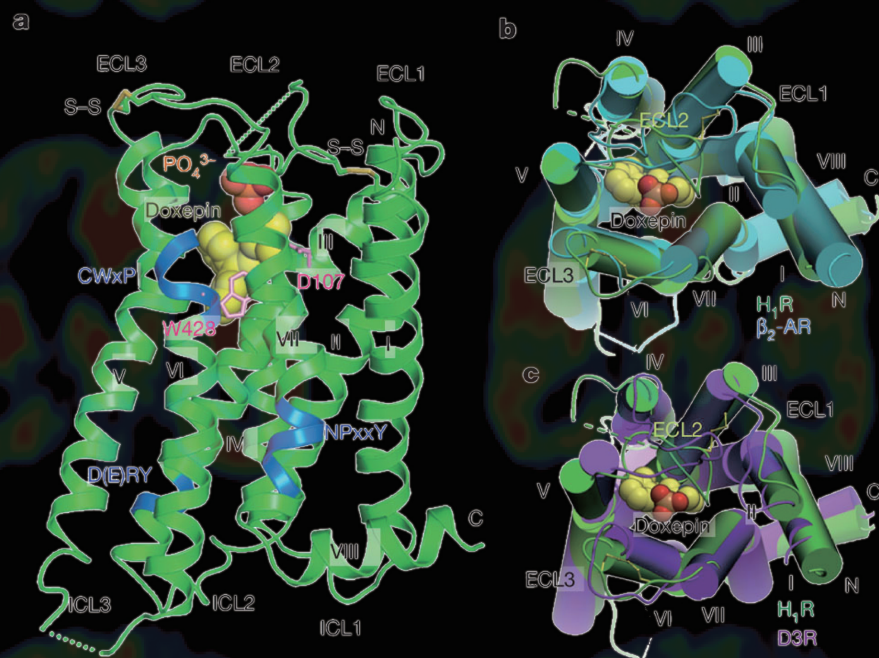


# 構造生物学から創薬まで : G蛋白質共役型受容体研究がもたらすパラダイムシフト



参加無料

日時

2012年9月30日(日)

17時30分～19時30分

会場

神戸国際会議場メインホール  
(600名)

## オーガナイザー

齋藤 祐見子 (広島大学・総合科学研究科・生命科学研究領域)

谷内 一彦 (東北大学・医学系研究科・機能薬理学分野)

## 講演者

- ◆ GPCRを介した情報伝達—古典的概念から新しい概念へ  
齋藤 祐見子 (広島大学大学院・総合科学研究科・生命科学研究領域)
- ◆ GPCRをターゲットにしたX線結晶構造解析の現状と今後の展望  
小林 拓也 (京都大学・医学研究科・分子細胞情報学)
- ◆ 新規生理活性ペプチドの探索: ヒトからショウジョウバエまで  
児島 将康 (久留米大学分子生命科学研究所)
- ◆ 光遺伝学を用いた視床下部神経による本能制御機構の解明  
山中 章弘 (名古屋大学・環境医学研究所)
- ◆ スフィンゴシン 1-リン酸受容体機能的アンタゴニスト,  
フィンゴリモド塩酸塩 (FTY720) の発見から臨床応用まで  
千葉 健治 安達 邦知 (田辺三菱製薬株式会社・研究本部)

【主催】 日本神経化学会

【E-mail】 齋藤祐見子 (yumist@hiroshima-u.ac.jp) 谷内一彦 (yanai@med.tohoku.ac.jp)

【URL】 日本神経化学会 (<http://www.neurochemistry.jp/>)

第55回日本神経化学会大会 (<http://www.congre.co.jp/jsn-apsn2012/index.html>)